

第1回		
テーマ	項 目	内 容
	検討会議の進め方	・計画策定期間
		・専門部会の設立し、会議の方針や議事内容を整理
		・市議会との連携（情報共有）
	市民合意	・基本構想についての丁寧な市民説明
第2回		
テーマ	項 目	内 容
前提条件の整理	新施設の適切な規模	・職員数は減少傾向にあるが現施設は狭あい、老朽化も一層進んできている ・デジタルの推進では文書管理や電子決裁なども踏まえ、適正な庁舎規模の目標についての検討 ・前提条件としての職員数や規模、利用頻度などの資料を基に今後の議論を進める
	文化センター	・大規模なイベントの開催が困難になりつつある ・座席等の修繕 ・選挙の投開票などでは施設がないと不便
	浸水対策等	・地盤面の嵩上げ、避難施設など防災機能を2階以上に配置。 ・駅周辺地域住民が避難できる機能を整備。
導入機能	バスターミナル機能	・各地域のバス停を増加させた方が効果的 ・周辺都市（増毛、札幌など）や市内各地区への移動が可能な交通ネットワークの構築の実現とバスターミナル機能を配置
	子育て支援機能	・子育て支援機能に関して新交流複合施設にも導入
	災害時の蓄電、自家発電機能	・災害時の電力確保から蓄電機能及び自家発電機能が必要 ・災害時に施設全てに電力を供給すると供給時間の減少が懸念される
	飲食機能	・新交流複合施設1階にはカフェ機能を持つ事業者の参入可能性を検討する
	その他機能	・議会機能も時代に沿った改革（議会室と会議室との併用など）が必要 ・新交流複合施設にはある程度の人数が収容可能なコンベンション機能の配置 ・中高生の交流できる場
	全体	・各機能の議論はどこまでか

第3回		
テーマ	項 目	内 容
市民交流機能	運営	・市民が主体となって何かしらの仕掛けづくり ・指定管理者との協力とノウハウのある人選 ・図書館(例)等と行政窓口を併設した場合の土日の運営
	使い方・活用方法	・(新施設に)行く目的が複数ある複合的な場 ・高校生から子連れの親子に来てもらいたい ・子どもが集まる場や母親世代がゆっくりできる場 ・若者目線で考える ・介護施設の入居者が使える施設
		・イベントができ、イベント時には広場とつなげてスペースを開放
		・見晴公園に設置のSLを移設
	機能について	・カフェ機能(日常的に行きやすい空間)
		・コンビニ
		・書店(公設民営)
		・ATM、郵便局
		・冷房設備
交通結節機能	結節機能	・市内バスは利用者のニーズを考えた結節点 ・都市間バスと市内路線のバスをつなぐ拠点 ・バス事業者側の考えを整理
		・バスの待ち時間にカフェ利用
		・パークアンドライドとしての利用
		・タクシーやマイカーとの接続が円滑となる設計
	駐車場等の整備	・自家用車での利用やバス利用者等を考慮し500台ほどの駐車場整備
		・除雪について考慮した設計

第4回		
テーマ	項 目	内 容
ホール機能	文化ホールの現況	・文化ホールの利用者は少ない。(音楽合宿または幼稚園や保育園のお遊戯会の練習(無料)が大半)
		・音楽合宿の今後の方向性
	ホール整備のあり方	・ホール整備の目的をどこに置くのか(芸術文化に専用か防災対応もできる多用途) ・収益性よりも利用頻度や利用形態が重要 ・交流複合施設の意義 ・人口減少など将来を見据えた新施設のあり方 ・幅広い視点からの議論(各会議室などホール機能、コンベンション機能全体の規模) ・音楽合宿にこだわらないこと(市内の中学校における活動(部活動)なども考えられる)
	市民の参加	・市民参加型の劇場
		・市民と専門家が一体となつての検討
	ホールの席(可動式・固定式)	・防災視点からの可動式の席 ・固定席には、社会的、文化的に秀でた根拠が必要
防災機能	維持管理、運営	・運用のしやすさを重視した設備 ・自前での維持管理運営から必要最低限とした音響設備(高度な音響設備とオペレートは主催する側で) ・運営については、専門家からの意見を把握・整理し反映
	新施設への避難想定	・新施設への避難対象者の想定 ・災害時における新施設への避難・収容人数の想定 ・避難所機能としての限定(災害対策本部機能の確保)
	整備予定地・施設の形状	・道整備位置を道の駅側へ(アクセス性向上の観点) ・船場公園、ちやいるも、アクティビティ施設との接続、避難距離の確保を目的とした整備予定地の拡張(ヴィレッジエリアA及び船場公園側に寄せる) ・1階に空間を持たせて周辺との連動性向上 ・2階部分にボリュームを置くこと
		・浸水可能性のあるエリアに敢えて避難施設を整備することに意味がある。

第5回		
テーマ	項 目	内 容
施設配置・ゾーニングについて	周辺との連携	・道の駅や港との連携 ・船場公園内を通り船場公園通りに接続する道路整備 ・線路に近い側に道路を整備
	駐車場配置	・旧駅前広場はまちの顔として広場にし、タッチ、タクシー乗り場、車寄せの場所にする（道の駅と連携したイベントの開催も可能） ・職員駐車場の想定場所は施設利用者との兼用駐車場とする
ホール機能について	配置	・ホールが2階の場合、エレベーター搬出入で行は時間がかかる（コンサートや演劇の主催者側からの不満） ・使い勝手やコスト面から1階に整備 ・搬出入の際に冬季の雪を考慮したトラックヤードの設計 ・市民が使いやすい施設がコンセプトであり、津波・洪水対策にこだわりすぎて、使い勝手が悪くなるのは良くない。
	座席形式	・大ホールと多目的ホール（平土間形式）の整備とあるが、複数整備の必要性 ・可動席の場合、使い方の制約やメンテナンス等でランニングコストが高くなる ・固定席と可動席のメリット・デメリットを整理して提示
	運営方法・使い方	・どのような使われ方、どのようにしたら市民が来るのかという議論を並行して行う ・無料利用が多いため、指定管理者等が主体となってイベントを誘致する方向に向けること ・市や民間団体が主体となってイベントの企画運営を行うこと ・稼ぐ施設にするのか市民が使いやすく稼働率を上げる施設にするのかなど、目的の設定 ・有料利用のみでもなく、また無料利用のみで稼働率が高い施設でもなく、両方のバランスの良い施設
		・舞台技術は専門性が高く基本的にはプロに任せるとする前提でホールの階数を考える ・固定席、可動席のどちらも音響の部分は設計段階からしっかりと考慮する